

死刑について考えてみませんか

街に行く皆さん。

この近くに東京拘置所があります。今、東京拘置所には二〇人を越える死刑の確定した人たちがいます。彼らは日々どのような生活をしているのでしょうか。

法律上は刑の執行のための身柄拘禁以外に彼らに科すべき制限は何もありません。しかし実際には死刑確定囚に対しては「心情の安定をはかる」という名目でさまざまな制限がおこなわれています。

アメリカのドキュメンタリー番組を見ていたら、死刑囚の人がジャーナリストのインタビューに答えていたり、電話をかけたりしていたわよ。びっくりしちゃった。日本ではそんなことないものね。

日本の処遇は厳しいからね。特に外部との接触については、親族と再審の弁護士以外の面会や文通は一切認められていない。房内からは30分にも満たない運動時間しか出られないし、ほかの死刑囚との交流もできないんだ。

そんなにまで制限する必要があるの？

日本でも昔はある程度自由だったようだ。帝銀事件で有名な平沢貞通さんは独房の中で絵を描くこともできたし、支援者と面会もできた。冤罪だった免田栄さんは、茶話会などの時に他の獄中者から再審という手段を教えられたということだ。だけど今ではそんなこともできないらしい。

免田さんのほかにも死刑囚の再審事件で無罪判決があいついだことがあった。それを押さえ込むために、死刑囚と外部の支援者との「生命綱」である面会、文通を断ち切ろうと法務省が考えたんじゃないかな。最近では「領置品の総量規制」といって自分の裁判の資料も持てる量がごくわずかにまで制限されはじめたらしいから、再審を訴えるのはますます難しくなるだろうね。

それだと無実の人まで処刑してしまうことにならない？ なんだかこわいわね。

日本の死刑囚の処遇はこの二〇年の間に全ての在監者の中で最もゆるやかなものから最も厳しい制限を受けるものにまで変わってしまいました。

死刑囚と外部との接触がこのような制限を受けることによって、多くの真実が闇に葬られることはないでしょうか。また、面会や文通を通してさまざまな人間関係を保つことは死刑囚が自らの事件や生い立ちを反省していくためにも大切なことではないでしょうか。私たちが死刑のこと、死刑囚のことを正しく知り、考えるためにも、このような現在の死刑囚処遇は改められてよいのではないのでしょうか。

街に行く皆さん。死刑のこと、死刑囚の処遇のことを、いっしょに考えてみませんか。